



# 人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和4年11月29日

No.8



2学期の人権学習のテーマは「障害のある人の人権」です。各学年の学習と考えたことを紹介します。  
(文章は一部編集しています)



## 2年生

2年生では、「障害のある人が日常生活でどのようなことに困っているかを考え、相手の立場になって物事を考え、行動することの大切さを理解し、一人ひとりができることを実践していく」ことを考えました。

私たちにも「走るのが苦手」「勉強が苦手」といった人がいるように、障害のある人も特定のことが苦手なだけで特別な目で見える必要はないと思った。お互いのことを理解し合い関わるのが大切だと思った。自分には見えていないものを見ようとする姿勢を大事にしたい。そして、どんな人と出会ってもコミュニケーションを取れるように頑張っていこうと思う。

人と違ったものがある人に「ほかの人よりも優しくしないと」という気持ちも、その人を気遣う優しさだと思う。でも、その人が困ったことがあった時にいつでも手を差し伸べられる環境と、ほかの人と同じような優しい対応をすることも大きな優しさだと思った。そういう思いやりであふれてほしいと思った。

世界には色々な人がいて、それぞれが得意なこと・不得意なこと、できること・できないことがあると思う。できないことが自分や他の人と違ったり、多かたりする人がいることを身近に感じる事ができた。ただ、その人たちを、障害者としてみるのではなく、一人の人として見ることを大切にしたい。でも、助けを求めているところを見たり、どうしても一人ではできないことは手伝うことも大切だと思いました。これからそういう風に過ごしたいです。

何かが不自由であったとしても、それを特別扱いする必要はない。でも、困っていたら他の健常者と同じように助ける。「障害者」という名前がついていても私たちの対応は何も変える必要がないと分かった。できないことがあるのは誰だって一緒。自分との違いが分かりやすかったりするだけで人一倍心配するという行動は、逆に相手を嫌な気持ちにする可能性もある。友達や目上の人、人によって言葉遣いを変えるぐらいの少しの気遣いぐらいが丁度いいと思った。



## 1年生

1年生では、「障害があることは他の人と比べて特別違っているのではなく、個性の一つであることを理解し、バリアフリーを実現するためにできること」について考えました。

バリアフリーを実現するためには、全員が助けるということは難しいかもしれないが、心の持ち方は変えることはできると思うので、誰もが他の人を思いやるのが大切だと思いました。また、私がこれから障害などを持った人に会ったときに、心の持ち方が大切だということを覚えておきたいです。

バリアフリーを実現するために、話しかけづらくても「大丈夫ですか？」と話しかけることが大事だと思います。ただし、上から目線ではなく、同じ立場であることが大切だと思います。

私たちが一番身近なのは「心のバリア」だと思います。一人ひとりが差別をしない気持ちで過ごしたら解決できると思いました。また、私も障害のある人に出会ったら「手伝います」ではなく、「大丈夫ですか」など優しく声をかけたいです。

バリアフリーとは物理的なことだけだと思っていたけど、心も関係していることを初めて知りました。また、日本は物理的なバリアはできているけど、心のバリアがまだまだあるので、海外のように困っていそうなら、フレンドリーに手伝うことはあるか聞くことが大切だと思いました。

バリアフリーは、点字や手すり、ピクトグラムなど、いろんなものが日常の中にあると気が付きました。障害者の人たちには、「かわいそう、気のどく、助けてあげなきゃ」ではなく、「この人がいっしょにやるならどうしよう、この人はこれならできるかな」など、その人も「同じ」と思って接していきたいです。



## 3年生

3年生では、『「障害の社会モデル」の考え方及び「合理的配慮」の在り方について学習し、障害のある人が自身の力を活かし日常生活を送るために必要な配慮を考え、実現する』ことについて考えました。

人を差別したり、偏見を持ったりしてしまうと、その人を傷つけてしまうということがよく分かった。得意なこと、できることがいっぱいある人もいれば、苦手なことがたくさんある人もいます。できる・できないは関係なく、できそうなことにどんどん挑戦することが大事だなと思った。

一番大切なのは相手の気持ちを考えることだと思いました。障害者の方でもできることはたくさんあるのに、できないことに目を向けてしまいがちです。だからもっと良いところを見つけて、一人ひとりの良さを生かすことが大切だと思いました。自分も人の気持ちを考えたり、人の良いところを見つけたりしたいです。

障害があっても、皆同じように自分でやりたいとか、何とかしたいっていう意思はあるから、その意思を尊重して、対等にすることが大切とわかりました。それに、言葉だけでは伝わりにくい、理解しにくいというのは誰でもそうであると思うから、そういうことに対する配慮を誰にでもできるような人になりたいと思いました。

耳が聴こえなくても、人とつながることができる社会というものの素晴らしさを感じました。耳が聴こえないということは会話ができません。しかし、手話をしたり筆談したりするなど、周りの人の優しい対応によって通じ合うことができます。耳が聴こえない人でも安心して過ごすためには、周りの人の協力や理解が欠かせません。だからそんな優しい人であふれる社会になってほしいと思います。

